

## 研究の実施に関する情報公開

広島大学大学院医系科学研究科病理学研究室では、疫学研究倫理審査委員会の承認（第E-974-1号）を得て下記研究を実施いたします。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2017年4月1日

### 研究課題：中皮腫の病理診断に有用なマーカー探索に関する研究

#### ■ 研究責任者

教授 武島幸男

#### ■ 研究期間

～2020年3月31日まで

#### ■ 対象者

1990年1月から2019年12月までの間に広島大学病院にて生検、手術あるいは病理解剖を受けた方

#### ■ 背景

中皮腫は、胸膜、腹膜、心膜、精巣鞘膜に発生するまれな腫瘍（日本での年間の発生数は1000例程度）ですが、その80～90%がアスベストを扱う職業に従事してきた労働者やアスベスト製品の使用者に発生することが明らかにされ、職業病あるいは公害として社会的関心を集めています。教室では以前からこの腫瘍についての研究を続けてきましたが、昨今の中皮腫の増加（過去のアスベスト使用量の増加による）と社会からの要請によって、我々の教室が日本における中皮腫の病理学的研究のセンターと位置付けられています。

#### ■ 目的と意義

我々の過去の研究により、日本の中皮腫の病理診断はその約15%は誤診であることが明らかになっています。その精度の向上をはかるためには、適切な免疫組織化学的染色を行うことが重要です。この研究では、中皮腫とその他の疾患の鑑別に有用な新たなマーカーとなる抗体の開発研究を行います。その成果により、中皮腫の診断精度の向上が期待されます。

#### ■ 方法

まず、当研究室の病理組織診断台帳から、中皮腫および中皮腫との鑑別を要する他疾患の患者さんの「病理番号」、「病理組織学的診断」、「病理組織学的所見」の情報のみを抽出し、この上方に基づいて対象とする標本を決定します。

次に、各病変のホルマリン固定パラフィン包埋標本を用いて

- FISH（蛍光 in situ ハイブリダイゼーション）法：対象の細胞に特定の遺伝子や染

色体の異常が存在するか調べる方法です。

- **Real-time RT-PCR（定量的逆転写ポリメラーゼ連鎖反応）**：細胞内のDNA, RNAを増幅させて発現のレベルを調べる方法です。
- **免疫組織化学的染色**：対象の細胞に特定の蛋白が発現しているかどうかを調べる方法です。

を行い、中皮腫とその他の疾患の鑑別に有用なマーカーとなる抗体を検索します。

※ **個人が特定できる情報は解析には用いません。**

#### ■ 試料・情報の管理責任者

広島大学大学院医系科学研究科 教授 武島幸男

※ **研究に試料を提供したくない場合は下記窓口にお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生じることはありません。**

※ **当研究室が保有する個人情報の開示請求は下記窓口にお申し出ください。**

#### ■ 本研究に関する問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先

広島大学大学院 医系科学研究科

病理学研究室

助教 櫛谷 桂

734-8551

広島県広島市南区霞 1 - 2 - 3

電話番号：082-257-5152

e-mail：kkushi@hiroshima-u.ac.jp